

1 「ときどきは、お祈りをするかい？」

2 「今朝、あなたは熱心に祈っておられたと、お父様がおっしゃっていました」

3 あ。ときどき、あんまり悲しくて、どうしようもなくなくなることがあるんです」

4 その間にもまた私はさがさずにはいられなかった。絶望的にさがさずにはいられなかった。

5 内面の月の光から目をそらすことができない。

6 だから、あたしも書きます。

7 「どんなことについて書くの？」

8 彼女は答えなかった。彼女の視線はおれの背後の空に向けられていた。

9 夜は豊かであった。闇は、青みがかった反射光、灰色の薄暗がり、白い光にみちみちた美

10 収穫するのを忘れた果樹園の果物は私と同じように一メートルばかり積もった雪の下

11 「ここが私の公園、私がしばし眠ることのできる唯一の場所です」

12 「おまえはたった一人で何をここでしているのだね？ わたしが恐ろしくはないのかね？」

13 わたしは恐れた——しかしわたしは覚悟をきめた。

14 「では、すべてをうちあげて申しませう」

15 死に絶えた惑星から話しかけてくる者がある。

16 彼に話しかけるよね、でもその相手はどこにもいなくて、しかもいたるところにいる

17 一語一句書き写しているのかもしれない。あるいはひよつとしてそれは言葉でさえもないかも

18 いい加減な作り話ではなくて、真実そのものです。

19 「そうさな。あなたは書きつづける方がいいと思うね」と彼ははげました。

20 「彼女は指先に、わしの思う以上の魔力をもっている」かれが穏やかにつけ加えた。

21 照明を使えば、はっきり見えるようになる。それもやってみたかい」

22 「洞穴にいたときにはわからなかった。でも、いまはそうだと思うわ」

23 「おまえさんは、どこからきたのかね。そして、いったいどこへ行くつもりかい」

24 「未来に決まってるじゃない！ これからどんなことが起きるか、知りたいもの」

25 これで氷の上を、すいすいと遠くまですべっていけると思うのよ」

26 彼女はバラバラとページをめくっていった。

27 神は、わたしたちのところへ来ようとして、世界の厚みを越えてくる。

28 駒鳥たちはその秘密を 我らに向けてくり返す

29 何十億年かの歳月で、時の長い大通りを見わたすことができたのは、この生物が最初だった。

30 鳥の声は、まっかな実の色で明るく見える、よく茂ったひいらぎのやぶのなかからきこえ

31 舞い上ったのでございしました。

32 「どこへ飛んで行くこうというの？」

33 われらはもはやさまようまい、

34 むかし君の住んだところに、心の慰めを見出そう。

35 でも、よく、神さまのところへ、とつても、とつても行きたいの。行ってもいいでしょ。

36 高い山や岩が夕日にあかあかと照り映えるのを見たのです。樫の木的那样よく音も聞いたの

37 行く手の空が美しい緑色の光をはなっているのを発見したのです。

38 そのとき娘の青い目が涙で渦巻きはじめ、彼女は泣きだした。

39 「いまちようと、わたしも同じことを頼もうとしてたところなの」

40 —— ママ、あたし、あの子のところへ行ってみますわ。

41 よい子、居ておやり、飾ってお上げ、食べさせてお上げ、そこでお寝み、いつも近く、

42 「この道を憶えてるかね？」と幽霊がきいた。

43 あのと、どうしてそんなことを思い出したのかわからない。

44 冷たい、あれは涙の泉、清らかなほうの 女の眼から。

45 雨蛙が鳴いている。むこうの、急に暗くなった丘の上で雨が降っている。森の上に虹

46 トムはその美しい思い出に手をさしのべた。

47 「生まれ故郷が見たくありませんか」

48 「トムや」わたしはいつた。「おまえはほんとうの故郷へ行くんだよ」

49 つまり、世界を一周すれば出発したところに帰ってくるわ。あらゆるものは、始まったところに

50 私の案内人は、ひと飛びして、青空へおどりこみ、けいれんする天の中に落ち、飛び去った。

51 子どもたち、母親たち、みんなが希望に顔を輝かせ、夢中になってかけつけてきた。

52 ここはまだ、海の上なのか？ そうだ、測ることもできないスピードで運ばれている。

53 並んで泳いでいた。背後のいかだの方から、子どもたちがいかだをのぼったり、飛びこんだ

54 『キャサリン嬢さん！ おれ、あれが読めるようになったよ』

55 「運命」に守られて、人間のあらゆる「喜び」や、あらゆる「しあわせ」が集っている

56 男女は、無二物のまま、太陽が水平線におちるのを眺めていた。

57 「何をいうつもりだったか、忘れないで。でも後ろを振り向いてごらんよ」

58 振り返って見た。これほどすばらしい人物をかれはいまだかつて見たことがなかった

59 「お会いできてうれしいです」

60 「ぼくはあなたが大好きです」

61 「あの人は、ほんとにわたしを愛していますか」と彼はたずねた。

62 「もちろんですとも、もちろんですとも」

63 「あなたのことを、どうして忘れることができましよう」

64 「ぼくはいま彼女を愛した人には、誰にでも感謝したい気持だ」

65 「ああ、探照灯だ！」

66 数メートルもあると思えるその層を通して海の奥深い所が見えるようになりました。

- 1 『悪童日記』アゴタ・クリストフ 堀茂樹訳 ハヤカワ e.p.文庫
- 2 『紙の迷宮(上)』デイヴィッド・リス 松下祥子訳 ハヤカワ・ミステリ文庫
- 3 『アン青春―第二赤毛のアン―』モンゴメリ 村岡花子訳 新潮文庫
- 4 『メルヒェン』ヘッセ 高橋健二訳 新潮文庫
- 5 『楽しみと日々』ブルースト 岩崎力訳 岩波文庫
- 6 『可愛いエミリー』モンゴメリ 村岡花子訳 新潮文庫
- 7 『アン愛情―第三赤毛のアン―』モンゴメリ 村岡花子訳 新潮文庫
- 8 『紙の動物園 ケン・リュウ短篇傑作集1』ケン・リュウ 古沢嘉通編訳 ハヤカワ文庫
- 9 『大洪水』J・M・G・ル・クレジオ 望月芳郎訳 河出文庫
- 10 『黄色い雨』J・リヤマサール 木村榮一訳 河出文庫
- 11 『ふたりの証拠』アゴタ・クリストフ 堀茂樹訳 ハヤカワ e.p.文庫
- 12 『蠅の王』ゴールディング 平井正穂訳 集英社文庫
- 13 『ジェーン・エア 下巻』C・プロンテ 大久保康雄訳 新潮文庫
- 14 『八十日間世界一周』ジュール・ヴェルヌ 田辺貞之助訳 創元e.p.文庫
- 15 『銀河ヒッチハイク・ガイド』D・アダムス 安原和見訳 河出文庫
- 16 『ふたりの証拠』アゴタ・クリストフ 堀茂樹訳 ハヤカワ e.p.文庫
- 17 『幽霊たち』ポール・オースター 柴田元幸訳 新潮文庫
- 18 『長靴をはいた猫』シャルル・ペロー 澁澤龍彦訳 河出文庫
- 19 『アン婚約』モンゴメリ 中村佐喜子訳 角川文庫
- 20 『リリス』ジョージ・マクドナルド 荒俣宏訳 ちくま文庫
- 21 『宇宙をほくの手の上に』フレドリック・ブラウン 中村保男訳 創元推理文庫
- 22 『リトル・クロウは舞いおりた』マーク・T・サリヴァン 高田恵子訳 文春文庫
- 23 『ヘンゼルとグレーテル』グリム童話集II 植田敏郎訳 新潮文庫
- 24 『あゝころ、私たちはおとんだ』アン・タイラー 中野恵津子訳 文春文庫
- 25 『ムーミン谷の冬』ヤンソン 山室静訳 講談社文庫
- 26 『なぜ、エヴァンズに頼まなかったのか?』アガサ・クリステイ 田村隆一訳 ハヤカワ・ミステリ文庫
- 27 『重力と恩寵』シモース・ヴェイユ 田辺保訳 ちくま学芸文庫
- 28 『アン想い出の日々 上巻―赤毛のアン・シリーズ11―』モンゴメリ 村岡美枝訳 新潮文庫
- 29 『地球の長い午後』ブライアン・W・オールデイス 伊藤典夫訳 ハヤカワ文庫
- 30 『秘密の花園』バーネット 龍口直太郎訳 新潮文庫
- 31 『完訳 千一夜物語(二)』豊島与志雄・渡辺一夫・佐藤正彰・阿部正孝訳 岩波文庫
- 32 『続若草物語(上)』オルコット 吉田勝江訳 角川文庫
- 33 『火星年代記』レイ・ブラッドベリ 小笠原豊樹訳 ハヤカワ文庫
- 34 『バイロン詩集』バイロン 阿部知二訳 新潮文庫
- 35 『マッチ売りの少女 アンデルセン童話集III』矢崎源九郎訳 新潮文庫
- 36 『アルプスの少女ハイジ』ヨハンナ・シュビリ 関泰祐・阿部賀隆訳 角川文庫
- 37 『オズの魔法使い』ライマン・フランク・ボーム 佐藤高子訳 ハヤカワ文庫
- 38 『愛のゆくえ』リチャード・ブローティガン 青木日出夫訳 ハヤカワ e.p.文庫
- 39 『あなたの人生の物語』テッド・チャン 浅倉久志・他訳 ハヤカワ文庫
- 40 『アンナ・カレニナ(上)』トルストイ 中村融訳 岩波文庫
- 41 『ブリギッタ・森の泉 他一篇』シュティフター 宇多五郎・高安国世訳 岩波文庫
- 42 『クリスマス・カロール』デイケンス 村岡花子訳 新潮文庫
- 43 『パッチワーク・プラネット』アン・タイラー 中野恵津子訳 文春文庫
- 44 『マラルメ詩集』渡辺守章訳 岩波文庫
- 45 『三人の乙女たち』フランシス・ジャム 手塚伸一訳 岩波文庫
- 46 『二人がここにいる不思議』レイ・ブラッドベリ 伊藤典夫訳 新潮文庫
- 47 『ほとんど無害』D・アダムス 安原和見訳 河出文庫
- 48 『宝島』ステイヴンソン 佐々木直次郎・稲沢秀夫訳 新潮文庫
- 49 『果しなき旅路』ゼナ・ヘンダーソン 深町眞理子訳 ハヤカワ文庫
- 50 『メルヒェン』ヘッセ 高橋健二訳 新潮文庫
- 51 『家なき子』H・マロ 福永武彦・大久保輝臣訳 河出文庫
- 52 『地底旅行』ジュール・ヴェルヌ 朝比奈弘治訳 岩波文庫
- 53 『スタンド・バイ・ミー 恐怖の四季 秋冬編』ステイヴン・キング 山田順子訳 新潮文庫
- 54 『嵐が丘』E・プロンテ 田中西二郎訳 新潮文庫
- 55 『青い鳥』メーテルリンク 鈴木豊訳 角川文庫
- 56 『類推の山』R・ドーマル 巖谷國士訳 河出文庫
- 57 『ファニー』ジェイムズ・ロング 坂口玲子訳 新潮文庫
- 58 『ドリアン・グレイの肖像』ワイルド 福田恆存訳 新潮文庫
- 59 『ビート・オブ・ハート』ビリー・レット 松本剛史訳 文春文庫
- 60 『ヘミングウェイのストゥケース』マクドナルド・ハリス 國重純二訳 新潮文庫
- 61 『ジェーン・エア 下巻』C・プロンテ 大久保康雄訳 新潮文庫
- 62 『アン友達―第四赤毛のアン―』モンゴメリ 村岡花子訳 新潮文庫
- 63 『ヘンゼルとグレーテル』グリム童話集II 植田敏郎訳 新潮文庫
- 64 『情事の終わり』グレアム・グリーン 田中西二郎訳 新潮文庫
- 65 『少年探偵団』江戸川乱歩 ポプラ文庫
- 66 『ソラリスの陽のもとに』スタニスワフ・レム 飯田規和訳 ハヤカワ文庫